

全支店文書を一元管理

SR1 常陽銀行へ販売

機密文書保管・抹消サービスや文書管理コンサルティングを手掛けるセキュリテリサイクル研究所(SRI)は、常陽銀行に「全文書一元管理システム」を販売、11年3月をめどに全面稼働させる予定。

伝票・書類など。同システム導入により、①どの営業店にどの文書があるか②誰が承認したのか③誰が閲覧したのか④いつ廃棄されたのか—という文書ライフサイクルに関する全情報を一元的に管理できる。

常陽銀行では今回の一連の投資額が、人件費や保管費用などの初年度のコスト削減分でカバーできると見込んでいる。

対象となる文書は行内全支店で日々発生する各種伝票や重要書類、同行の文書保存倉庫に現存するすべての

場合は現物保管を基本とし、必要が生じた場合のみ電子化し簡便に取り出す仕組み。オンデマンド方式のため全量電子化と比較するとインシャルコスト、ランニングコストの双方を大幅に削減できるといえる。

常陽銀行では今回の一連の投資額が、人件費や保管費用などの初年度のコスト削減分でカバーできると見込んでいる。

同行や既にオンデマンド電送サービスを除く同システムを導入している第四銀行などでは、同システムを自行サーバーの中に立ち上げ、イントラネットで

使用する。一方、インターネット利用が可能な保険、証券、カード会社などにはASP型のサービスも提供する。同社は、9月8日14時から東京・中央区のベルサール八重洲で「紙文書一元管理システム導入による業務改善事例のご紹介」セミナーを開催し、第四銀行、常陽銀行の事例を発表する。参加費は無料。対象は総務部門文書管理担当者。